

どうとく の ひろば

こころのひろば

笑顔をつなぐ三陸鉄道 [望月正彦]

特集

モデレーション

チームとなって取り組む「道徳科の評価」のすすめ

[桑田隆男]

見てわかる! 道徳

「感動, 畏敬の念」と「よりよく生きる喜び」

[越智 貢, 奥田太郎, 上村 崇]

実践事例

小学校 考える視点を明確にし,
「自己理解」に生かす授業実践
[野場正道]

中学校 みんなで語り,
考える道徳の授業を目指して
[木下陽子]

こんなとき, どうする?

先生の考えに合わない意見を
言ったり書いたりしたら評価は下がるの?

[河合宣昌, 江川 登, 上地完治]

どうとくマンガ

「どうする?とくだ先生!」第5話 [島 恒生/たら子]

連載 地球の仲間からのメッセージ

かえ

卵を孵す [長瀬健二郎]

本資料は、「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索

未来をになう子どもたちへ

日本文教出版 / 秀学社



こころのひろば

笑顔をつなぐ三陸鉄道

島越駅で記念列車を迎える人々

前三陸鉄道株式会社
代表取締役社長

望月正彦

プロフィール

1952年1月 岩手県花巻市生まれ
1974年3月 山形大学人文学部(法律)卒業
1974年4月 岩手県庁入庁
2003年7月 岩手県久慈市助役
2008年4月 岩手県盛岡地方振興局長
2010年3月 岩手県庁退職
2010年6月 三陸鉄道(株)代表取締役社長就任
2016年6月 三陸鉄道(株)代表取締役社長退任

東日本大震災と鉄道復旧の決意

三陸鉄道は、岩手県の沿岸に路線を持つ第三セクターの鉄道です。2011年の東日本大震災は、三陸鉄道にも甚大な被害をもたらしました。北リアス線の島越駅しまのこしは跡形もなく流出し、線路も107.6kmのうち5.8kmが流出してしまいました。

私は震災の被害を、そして地域の皆さんが途方に暮れている姿を目の当たりにし、鉄道の運行再開を優先することを決定しました。沿線市町村や自衛隊などの協力をいただき、運行可能と見込んだ区間の復旧を急ぎました。そして3月中に全線の3分の1に当たる北リアス線の一部36.2kmを復旧しました。

2011年4月に、3年で全線運行を再開させる復旧計画を策定し、国などの支援をいただきながら復旧工事に着手しました。工事は順調に進み、計画どおり2014年4月に全線運行再開することができました。



流出した島越駅と高架橋

鉄道の存在感

今回の震災で強く感じたことがあります。それは、鉄道の存在感の大きさです。

震災から2ヵ月が過ぎた5月のある日、私は北リアス線の被災状況を調査するため、田野畑駅に赴きました。駅舎はかろうじて残っていましたが、周辺の家々は津波で流出し、線路も寸断されていました。しかし駅には駅舎の清掃と周辺の草取りをする多くの住民の姿がありました。復旧についてまだ何も決まっていない、いやむしろ鉄道の復旧は絶望視されていた時期のことでした。その姿を見たとき、私は思いました。「この人たちのために何とかして鉄道を復活させよう」と。

そしていよいよ南リアス線の運行が再開した日、甬嶺^{ほり}駅に集まってくださった住民の皆さんの中にボードを掲げている女性の方がいました。ボードに書かれていたのは「おめでとう」でも「ありがとう」でもなく、「おかえり」でした。翌日の北リアス線運行再開の日に、島越駅周辺で一軒だけ残った家に掲げられたボードに書かれていたのも「おかえり」でした。さらに三陸鉄道が全線運転再開したその日は、26ある三陸鉄道の駅に多くの住民の皆様が集まり、大漁旗を振って、大歓声とともに笑顔で祝ってくれました。

地域の皆さんにとって、三陸鉄道は家族のような存在なのだと感じた瞬間でした。三陸鉄道を復活させたのは、こうした地域の皆さんの「想い」なのかもしれません。

当たり前の日常生活を

震災からまもなく6年、三陸鉄道が全線で運行を再開してから3年になります。しかし地域の復旧はなかなか進まず、駅前に家が戻っていない所が多くあります。また少子高齢化・過疎化も進んでいます。課題は多く、震災からの復興は容易ではありません。復興は、単に家や街並みが元に戻る

ことではありません。そこに住む人々が、明日に希望を持って生活していけるようになる、当たり前前の日常生活ができるようになる、そのことが大切なのだとつくづく思います。

「生活の足」と地域貢献

私は、三陸鉄道の復旧には2つの大きな意義があると考えています。1つは地域の皆様の「生活の足」となること。児童・生徒の通学や高齢者の買い物など、いわゆる交通弱者の交通手段を確保することです。鉄道は安全・安心な乗り物で、そして環境にも優しいので、生活の足にはうってつけです。

2つ目は地域の産業振興や活性化に貢献することです。三陸鉄道沿線には、国の名勝に指定されている宮古市の「浄土ヶ浜」や日本一の海岸美に選定された田野畑村の「北山崎」、恋人たちの聖地となっている「恋し浜」など多くの見どころがあり、アワビ、ウニ、マツタケなど美味しい食材にも恵まれているので、観光旅行も十分楽しめます。また、現地を自分の目で見て、震災について学ぶことも大切です。教育旅行にも適しています。そうして県内外から三陸沿岸地域に来ていただき、宿泊し、食事をし、お土産を買ってもらうことが、地域振興や活性化につながります。さらに、鉄道を利用し、ゆったりとした旅を楽しみたい多くの人にも満足と笑顔をもたらすことでしょう。

これからも地域とともに

私を知る限り、鉄道が廃止されて栄えた地域は日本にひとつもありません。地域を衰退させないためにも、鉄道の持つ利点を活かしていくことが大切です。三陸鉄道が、これからも地域と地域を結び、人々の笑顔をつないでいくことを願ってやみません。

三陸鉄道「レトロ列車」車内にて



チームとなって取り組む モデレーション 「道徳科の評価」のすすめ

佐用町立利神小学校 校長 桑田隆男

1 ポートフォリオ評価の活用

道徳科の評価の最大の難しさは、評価対象である道徳性が直接観察できないということに尽きます。そのため、たくさん子どもたちの表現物(ワークシート等)や発言内容などを手がかりにして、子どもの成長を評価するしかないので。したがって、評価に値する学び、すなわち、子どもが成長した学びが展開され、その学びを見取ることのできる指導や評価の計画を立てることが大切となります。もちろん、道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議の報告(平成28年8月)にも明示されているように、観点別評価ではなく、個人内評価として丁寧に見取る必要があります。

また、「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について(報告)」によれば、【評価の視点】として、

- ・他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
 - ・多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
- といった点に注目することが求められる。

特に顕著と認められる具体的な状況を記述する、といった改善を図ることが妥当であると考えられる。

と明示してあります。

では、実際にどうやって評価すればよいのでしょうか。有効な方法の一つが、ポートフォリオ評価であると考えます。ただ単純に子どもが表現物を綴れば、ポートフォリオになるというものではありません。

ポートフォリオとするためには、以下の3つの条件が必要です。

- ①作り方を教師が指導する。
- ②蓄積した表現物などを一定の系統で並べかえたり取舍選択したりして整理させる。
- ③子どもの変容を教師間で共有するために、ポートフォリオについて話し合う場(ポートフォリオ検討会)をもつ。

2 モデレーションのすすめ

しかし、評価はどうしても教師の主観に陥りやすいのも事実です。教師一個人の感覚でつけてしまうと基準がバラバラになりやすく、「本当に子どもの成長を評価できているのか(妥当性)」「隣の先生の評価と違うのではないか(信頼性)」といった課題が残ります。

前述の「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について(報告)」の中にも、

道徳科の評価を推進するに当たっては、他教科と同様に、学習評価の妥当性、信頼性等を担保することが重要であり、そのためには、評価が各個人の教師にのみ任せられ、個人として行われるのではなく、学校として組織的・計画的に行われることが重要である。

(略) 評価結果について教師間で検討し評価の視点などについて共通認識を持つこと

と明記されています。

そこで、これらの課題を克服するために、モデレーションをお勧めします。モデレーションとは、複数の教師が同じ種類の評価資料(ポートフォリオに蓄積された表現物など)を持ち寄って検討し、評価の調整を図る会議のことをいいます。

子どもの表現物を複数の目で見ること、その結果をお互いが見て比べることで、具体的な評価の考え方や方法を学ぶとともに、教師自身の評価能力を高めることにもつながります。教師にとってこの評価の異なる点について話し合うことが、学習指導の改善にもつながっていくのです。

また、モデレーションを校内研修に取り入れることで、表現物から子どもが登場人物の心情をどう理解したのかを、教員同士が読み取ることとなります。複数の教師が頭を突き合わせ、子どもを理解しようと深く考えます。このことが深い子ども理解につながります。チームとなって子どもの成長を見取ろうとすることが可能となるのです。



写真1

3 モデレーションの実際

では、モデレーションの実際を紹介します。
使用した子どもの表現物(評価資料)は以下のNo.1～No.8です。

No.1「まどガラスと魚」1-4)正直・誠実, 明朗

わたしは、進一郎がちょっとおかしいと思いました。わけは、わったらすぐあやまらなかったことがへんだなと思いました。でも、わたしは正直にあやまれないと思います。

No.2「ブラッドレーのせいきゅう書」4-3)家庭愛

わたしは五才くらいの時、おこづかいがほしかったけど、一年生の時から、おかしいなあ～と思いました。だから、一年生の時けんしました。お母さんのために、お母さんがちょっとでもらくになってほしくて、ごほうびちょうだいというのをやめました。

No.3「キウイフルーツのたなの下で」1-3)勇気

わたしは「ゆうき」って大切で、すごく思いきり言わなきゃならないんだなと思いました。やっぱり注意することとはすごくだいじだと思いました。お母さんがわたしにゆう気をくれたと思います。

No.4「言葉のまほう」2-1)礼儀

わたしは、もっとすぐにキレてしまうので、もっとすぐにあやまろうと思いました。もっとやさしい言葉をつかおうと思いました。

No.5「リフティング百回」1-5)個性の伸長

わたしははじめバレーに入ったとき、自分だけできないことがたくさんあったので、しゅんさんみたいにやめたくなくなりました。でも、やめなかったわけは、お母さんに、「はじめからうまくできる人はいない。」と言われたので、やめたいと思ったときは言いきかせています。なので、しゅんさんも同じ気持ちだったと思います。わたしも自分をなくしたときは「やればできる。がんばろう。」と言おうと思いました。自分のいいところは人それぞれなので、いいことだと思いました。

No.6「水飲み場」4-1)公德心, 規則の尊重

わたしはあんまり自分ではやっていないことはしないけれど、水飲み場というべん強をしてから、まねしてみようと思いました。

No.7「祭りだいこ」4-5)郷土愛

「昔から受けつがれているし、毎年あるんだったらみんな心まちにしているから楽しい思いでやらなきゃ。」と良子さんは思ったから、親友の山本さんとにっこりわらったと思います。

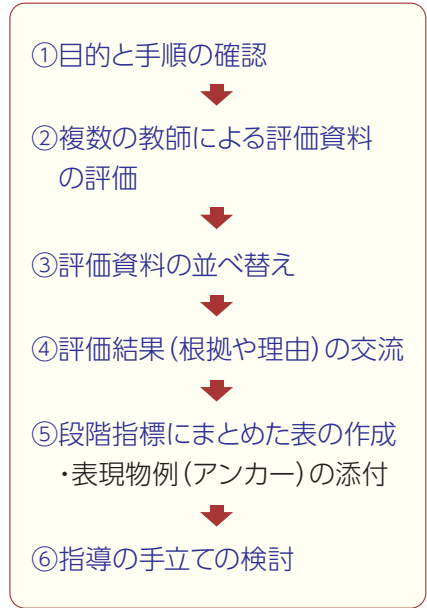
No.8「かめのおうだん」3-2)動植物愛護・自然愛

わたしは、弱っているつばめをたすけたことがあります。でもちょっと(三日)しかそだててないのに、つばめが死んでしまったので、すごく泣きました。だから、動物にもにんげんにも何にでも思いやりやさしさがあるんだなと、このべん強をして分かりました。あと小さい命もすごく大切なことが分かりました。



写真2

モデレーションの流れ



次に、モデレーションの手順①～⑥を示します。

- ①目的と手順の確認 (3ページの写真1)
目的と手順の確認をします。
- ②複数の教師による評価資料の評価(写真2)
複数の教師が、通し番号のついた評価資料を読み、付箋紙にA(3点:十分満足), B(2点:おおむね満足), C(1点:努力を要する)で採点し、その根拠や理由を記述します。
- ③評価資料の並べ替え(写真3, 4)
付箋紙を回収し、評価資料の平均点を算出し、机の上に平均点の順に並べます。

- ④評価結果(根拠や理由)の交流(写真5)
3～5人のグループで司会者を決め、評価資料ごとに採点の根拠や理由について交流します。
- ⑤段階指標にまとめた表の作成
段階指標にまとめた表を作成し、表現物例(アンカー)も添付します。
- ⑥指導の手立ての検討(写真6)
レベルCやレベルBの児童生徒に対する指導の手立てについて検討します。

具体的には、評価資料No.1を例にすると、「でも、わたしは正直にあやまれないと思います。」という記述に対して、なぜそう考えるのか子どもに問い返すという手立てが必要だと思われます。この記述の背景にある価値観やものの見方に着目し、教師がねらいとする道徳的価値に対する子どもの捉え方(道徳的価値レベル)を深く理解することで、学習指導の改善にもつながるのです。



写真3

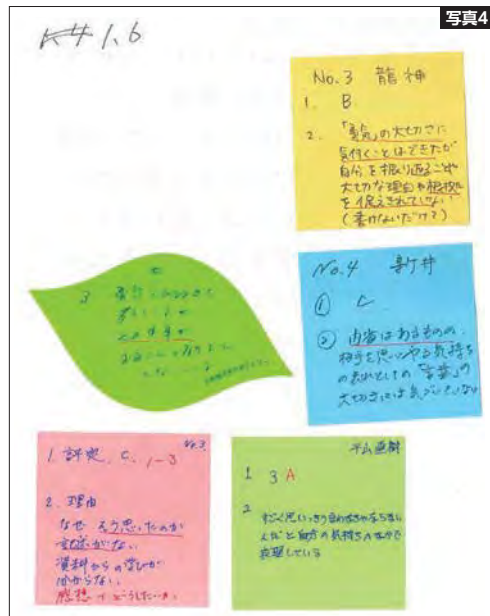


写真4

4 モデレーションの成果に基づく個人内評価

ここでモデレーションを「道徳科の評価」に有効に活用するため、時系列で子どもの成長を見取る評価について述べます。

(1) 個の高まりを見取る評価

実は、これまで評価資料として扱ってきたNo.1～No.8の作品は、小学3年A児のワークシート(道徳ポートフォリオ)に書かれたものです。つまり、すべてA児の作品なのです。

ここで、評価資料と平均点を学習の時系列で並べてみましょう。

- 4月 評価資料No.4「言葉のまほう」
(レベルB 平均1.8点)
- 5月 評価資料No.6「水飲み場」(レベルC 平均1.2点)
- 7月 評価資料No.2「ブラッドレーのせいきゅう書」
(レベルB 平均1.8点)
- 10月 評価資料No.1「まどガラスと魚」
(レベルC 平均1.2点)
- 11月 評価資料No.7「祭りだいこ」
(レベルC 平均1.2点)
- 11月 評価資料No.3「キウイフルーツのたなの下で」
(レベルB 平均1.6点)
- 11月 評価資料No.5「リフティング百回」
(レベルA 平均2.6点)
- 11月 評価資料No.8「かめのおうだん」
(レベルA 平均2.8点)

このように時系列で見ると、特定の時期や道徳的価値に関わる見方、考え方については、紆余曲折があるものの一定の成長が見て取れます。また、自分の思い



写真5

を表現するために、必然的に文字量が増えていることもわかります。

前述の「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について(報告)」の中にも、

こうした評価に当たっては、記録物や実演自体を評価するのではなく、学習過程を通じていかに成長したかを見取るためのものであることに留意が必要である。

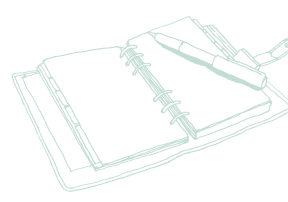
と記されています。

「道徳科の時間」においても、学期ごとや1年間といった長期的な視点で子どもの成長を見取る大切さがわかります。

段階指標をまとめた表

写真6

段階指標	パフォーマンスの特徴	アンカー	指導の手立て	
A レベル3	命の大切さに気付いている。 自分の体験に重ねている。 自分なりに考えている。	評価資料 No.4 「かめのおうだん」 「1」自然史・動物観察 「2」自然史・動物観察 「3」自然史・動物観察 「4」自然史・動物観察 「5」自然史・動物観察 「6」自然史・動物観察 「7」自然史・動物観察 「8」自然史・動物観察 「9」自然史・動物観察 「10」自然史・動物観察 「11」自然史・動物観察 「12」自然史・動物観察 「13」自然史・動物観察 「14」自然史・動物観察 「15」自然史・動物観察 「16」自然史・動物観察 「17」自然史・動物観察 「18」自然史・動物観察 「19」自然史・動物観察 「20」自然史・動物観察 「21」自然史・動物観察 「22」自然史・動物観察 「23」自然史・動物観察 「24」自然史・動物観察 「25」自然史・動物観察 「26」自然史・動物観察 「27」自然史・動物観察 「28」自然史・動物観察 「29」自然史・動物観察 「30」自然史・動物観察 「31」自然史・動物観察 「32」自然史・動物観察 「33」自然史・動物観察 「34」自然史・動物観察 「35」自然史・動物観察 「36」自然史・動物観察 「37」自然史・動物観察 「38」自然史・動物観察 「39」自然史・動物観察 「40」自然史・動物観察 「41」自然史・動物観察 「42」自然史・動物観察 「43」自然史・動物観察 「44」自然史・動物観察 「45」自然史・動物観察 「46」自然史・動物観察 「47」自然史・動物観察 「48」自然史・動物観察 「49」自然史・動物観察 「50」自然史・動物観察 「51」自然史・動物観察 「52」自然史・動物観察 「53」自然史・動物観察 「54」自然史・動物観察 「55」自然史・動物観察 「56」自然史・動物観察 「57」自然史・動物観察 「58」自然史・動物観察 「59」自然史・動物観察 「60」自然史・動物観察 「61」自然史・動物観察 「62」自然史・動物観察 「63」自然史・動物観察 「64」自然史・動物観察 「65」自然史・動物観察 「66」自然史・動物観察 「67」自然史・動物観察 「68」自然史・動物観察 「69」自然史・動物観察 「70」自然史・動物観察 「71」自然史・動物観察 「72」自然史・動物観察 「73」自然史・動物観察 「74」自然史・動物観察 「75」自然史・動物観察 「76」自然史・動物観察 「77」自然史・動物観察 「78」自然史・動物観察 「79」自然史・動物観察 「80」自然史・動物観察 「81」自然史・動物観察 「82」自然史・動物観察 「83」自然史・動物観察 「84」自然史・動物観察 「85」自然史・動物観察 「86」自然史・動物観察 「87」自然史・動物観察 「88」自然史・動物観察 「89」自然史・動物観察 「90」自然史・動物観察 「91」自然史・動物観察 「92」自然史・動物観察 「93」自然史・動物観察 「94」自然史・動物観察 「95」自然史・動物観察 「96」自然史・動物観察 「97」自然史・動物観察 「98」自然史・動物観察 「99」自然史・動物観察 「100」自然史・動物観察	アンカー	指導の手立て
B レベル2	命の大切さに気付いている。 自分の体験に重ねている。 自分なりに考えている。	評価資料 No.2 「ブラッドレーのせいきゅう書」 「1」自然史・動物観察 「2」自然史・動物観察 「3」自然史・動物観察 「4」自然史・動物観察 「5」自然史・動物観察 「6」自然史・動物観察 「7」自然史・動物観察 「8」自然史・動物観察 「9」自然史・動物観察 「10」自然史・動物観察 「11」自然史・動物観察 「12」自然史・動物観察 「13」自然史・動物観察 「14」自然史・動物観察 「15」自然史・動物観察 「16」自然史・動物観察 「17」自然史・動物観察 「18」自然史・動物観察 「19」自然史・動物観察 「20」自然史・動物観察 「21」自然史・動物観察 「22」自然史・動物観察 「23」自然史・動物観察 「24」自然史・動物観察 「25」自然史・動物観察 「26」自然史・動物観察 「27」自然史・動物観察 「28」自然史・動物観察 「29」自然史・動物観察 「30」自然史・動物観察 「31」自然史・動物観察 「32」自然史・動物観察 「33」自然史・動物観察 「34」自然史・動物観察 「35」自然史・動物観察 「36」自然史・動物観察 「37」自然史・動物観察 「38」自然史・動物観察 「39」自然史・動物観察 「40」自然史・動物観察 「41」自然史・動物観察 「42」自然史・動物観察 「43」自然史・動物観察 「44」自然史・動物観察 「45」自然史・動物観察 「46」自然史・動物観察 「47」自然史・動物観察 「48」自然史・動物観察 「49」自然史・動物観察 「50」自然史・動物観察 「51」自然史・動物観察 「52」自然史・動物観察 「53」自然史・動物観察 「54」自然史・動物観察 「55」自然史・動物観察 「56」自然史・動物観察 「57」自然史・動物観察 「58」自然史・動物観察 「59」自然史・動物観察 「60」自然史・動物観察 「61」自然史・動物観察 「62」自然史・動物観察 「63」自然史・動物観察 「64」自然史・動物観察 「65」自然史・動物観察 「66」自然史・動物観察 「67」自然史・動物観察 「68」自然史・動物観察 「69」自然史・動物観察 「70」自然史・動物観察 「71」自然史・動物観察 「72」自然史・動物観察 「73」自然史・動物観察 「74」自然史・動物観察 「75」自然史・動物観察 「76」自然史・動物観察 「77」自然史・動物観察 「78」自然史・動物観察 「79」自然史・動物観察 「80」自然史・動物観察 「81」自然史・動物観察 「82」自然史・動物観察 「83」自然史・動物観察 「84」自然史・動物観察 「85」自然史・動物観察 「86」自然史・動物観察 「87」自然史・動物観察 「88」自然史・動物観察 「89」自然史・動物観察 「90」自然史・動物観察 「91」自然史・動物観察 「92」自然史・動物観察 「93」自然史・動物観察 「94」自然史・動物観察 「95」自然史・動物観察 「96」自然史・動物観察 「97」自然史・動物観察 「98」自然史・動物観察 「99」自然史・動物観察 「100」自然史・動物観察	アンカー	指導の手立て
C レベル1	命の大切さに気付いている。 自分の体験に重ねている。 自分なりに考えている。	アンカー	指導の手立て	



(2)自分の成長を振り返る評価

さらに、モデレーションを「道徳科の評価」に有効に活用するために、学期ごとに子どもが自分の成長を振り返る評価について述べます。

そこで、小学4年B児とC児が1月頃に、これまで(1学期～2学期)の道徳の学習を振り返って書いたものを見てみましょう。

B児の振り返り

「これまでの道とくの勉強を振り返って」

私は一つ成長したな～と思ったことがあります。それは、だんだんその人の気持ちに入っていることです。最初は自分から見て書いていたけど、後の方になってくるとその人が言ったのをメモしているように見えました。一年もたっていないのにずいぶん成長していて自分でもびっくりです。三学期の終わりにはもっと感じよう的になっているかもしれません。(以下略)

B児の表現は、言葉足らずで言い尽くせていない点も多く見受けられますが、「読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている」ことがわかります。

C児の振り返り

「これまでの道とくの学習を振り返って」

4年生になってからすぐの私は、あまり自分から、発表していなかったけど、だんだん5年生に近づいてくるたびに、発表回数がふえたと思いました。今は、一時間に何回も発表しているくらいです。すごく成長したなと自分でも思いました。

もう一つ私が成長したなと思うのは、「心」です。

ファイルをずーっと見てみると、最初は、ワークシートに、1, 2行しか書いていなかったけど、どんどん2行が3行、3行から4行……と、最後までいったり、はみ出すまで書いているのもありました。だから、自分で人への思いやりの心などが広がったと思いました。これからも道とくをがんばって、もっと心を広くしたいです。(以下略)

C児は、「人への思いやりの心などが広がった」ことにふれ、自分自身の心の成長を捉えています。また、自分の思いをワークシートからはみ出すくらい表現できるようになったことにも成長を感じていることがわかります。

このことから、1回限りの授業場面だけで見取るのではなく、学期ごとまたは1年間で子どもの成長を見取ることが子どもの伸びをより多面的・多角的に把握す



ることが可能となることがわかります。また、教師サイドの評価ではなく、子ども自身が自分の成長を感じ取ることで、自立した人間へと成長を促すことにもなります。

5 まとめにかえて

「道徳科の評価」について、チームで取り組むモデレーションという方法について述べてきました。モデレーションを実施した上で、時系列で子どもの成長(個の高まり)を見取る評価、学期ごとの振り返りで自分自身の成長を見取る評価が重要であることを、事例をもとに説明しました。モデレーションを有効に活用することで、子どもたちの成長を見取ることが可能となるのです。校内研修にモデレーションを取り入れることで、まさにチームで取り組む「道徳科の評価」となり得るのです。

しかし、モデレーションはあくまでも一つのツールでしかありません。最も重要なことは、「授業を変える」ことです。「評価に値する道徳科の授業づくり」が、今、求められています。子どもたちの道徳的価値レベルを十分に把握したうえで学習展開を組み立て、どの意見をどう取り上げることで、道徳的価値の何について考えさせるのか、指導者の中で明確になっていなければなりません。つまり、教師の力量がこれまで以上に問われているのです。

モデレーションに 取り組んでみて

桑田先生の考えをもとにモデレーションに取り組まれた先生方に、感想を話し合っただき、最後に島恒生先生に総括していただきました。

【参加者】 平山 直樹先生 中山 真樹先生
 新井 浩一先生 龍神 美和先生



くわ た たか お
桑田 隆男

佐用町立利神小学校 校長

桑田先生●1回きりの授業ではなく、長期的なスパンで子どもの成長を見取れる個人内評価が道徳にはいいのではないかと考えます。子どもが振り返り進んで書けるような授業がいい。モデレーションを通して子どもの成長を見取れたらいいと思います。

中山先生●「その時間で学んだこと」については私も書かせていました。道徳の時間全体での振り返りをさせていました。今回気になるのは、発表がたくさんできるようになったというのはいいいのですが、何を評価するのかということがハッキリしていない。道徳科としての評価なのか、道徳性の評価なのか、発表がたくさんできた、書けたということでもいいのか、というのを見ていかないといけません。こうしていきたいです、という表明することを道徳でしていいのでしょうか。もしも実行できて

いなかったら、書いたのにできていないということになります。授業のことについて評価するのか、行動を評価するのか。きっと道徳の評価のむずかしさはそのへんにあるのかと思います。

桑田先生●振り返りを書かせることを通して自分自身で見つめなおす時間を設けることが、心を育てることにつながると思います。

平山先生●書かれたものに、その内容項目のキーワードが出ていたら、その授業が想像できますね。書ける量というのもあるが、振り返りが思いを持ってできるようになるというのはいいいこと。ただ、道徳性を評価することに関しては、すごく課題がある。その意味でも、一人ひとりの子どもを丁寧に見取るということはずごくいいことですね。

桑田先生●キーワードが見えてこないというのは課題かもしれない。実はこの資料は平成23年度のものなんです。また、このような取り組みは、校内研修でやるともっと効果ができそうです。見取る先生たちが授業も知っていて、校内の様子もわかっている、児童もわかるという状況だと効果的だと思います。



なか やま ま き
中山 真樹

高槻市立竹の内小学校 教諭



新井先生●これまでは、資料の登場人物に寄り添って共感できるかどうか、自分の思いをそこに投影できるかどうかということを授業で大切にしてきました。評価するときにも、資料の中に入り込んで道徳的価値に気がついたかどうかを見てきました。授業中の発問の構成などにも関係してくるのですが。

中山先生●こういうワークシートの場合、評価と直接関係ないけれども、書き方の指導が必要ですね。うまくいった授業はたくさん書いているというのわかる。多分これにプラスして、板書の指導や、発問を書き込んだ略案を見れば、授業改善できます。

桑田先生●授業改善という発想でノートを作るのであれば、資料、展開、板書があればいい。キーワードなどの資料が蓄積されていくと成長につながってきます。

新井先生●次の学年に1年間の評価の申し送りなどをしていくといいですね。

中山先生●私は1年間の挿絵、ワークシートのコピーはすべて残して、他の先生とも共有しています。

龍神先生●子ども理解というのがたいへん頭に残っています。レベルがCの子には、Cがその授業のねらいになっていたのかもしれない、そこを共通理解しないといけません。その子のワークシートを並べてみて、Bの内容に触れている場合はすごいことですし、そこを校内で共有することは大変意義があることです。また、経験的には、心情理解ができない子はAまで行かない。まずはBを目標にするにはどうしたらいいのか、どうするかということを考えることが必要だと思います。

りゅうじん みわ
龍神 美和

豊能町立東ときわ台小学校 教諭



あら い こう いち
新井 浩一

前姫路市立城西小学校 校長

新井先生●ワークシートがあると、どうしてもレベルがAの子どもを探してしまう傾向があります。しかし、Cの子どもをどうやってBにするのかというのが大事なことです。

龍神先生●この子どもをどうしたらいいのかと考えることに価値があるんですね。

桑田先生●ぜひ、校内の研修でやっていただきたい。

龍神先生●Cの子どもを普段の様子などいろいろなことと繋げていくと、どんなふうに課題、ねらいをもっていけばいいのかというのがわかってきます。ぜひやってみたい。

中山先生●短期的に見ていくもの、長期的に見ていくものの2つの視点がいます。まずは短期的な視点を持つこと、それがあれば長期的な視点にも繋がっていくのでは。

桑田先生●この取り組みは、決してルーブリック表を作るのが目標ではなく、校内研修で心の中の評価を、お互い考えているということを確認し合うということなんです。その上で、改めて授業とは、評価とは何かということが分かればいい。

中山先生●子どもの発達段階を考えてやっていきたいですね。道徳性の発達段階に対する理解を積み重ねていけないといけないのかなと思います。発達段階を考慮するのは、ねらいがあまりにも高い、低いということではなく、どこをねらいにするのかということを考える指標なんです。そこがわかると授業が変わってくる。

桑田先生●『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』（平成27年7月）で学年段階ごとに示されている内容項目が指標になると思います。

しま つね お
島 恒 生

畿央大学大学院 教授

一 島先生による総括

「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）」を受け、平成28年7月29日に出された文部科学省初等中等教育局長通知は、道徳科の評価の基本的な考え方を示すとともに、多様な指導方法の確立や評価の工夫・改善に向けた積極的な取り組みを求めています。今回、提案していただいたモデレーションの取り組みは、みんなで組織的に取り組むという点も含めて、たいへん有意義なものであると考えます。

道徳性の評価は、人格的な触れ合いによる共感的な理解を基盤とし、児童生徒が自らの成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指すことが求められています。具体的には、学習活動における児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を、個人内評価として丁寧に見取り、記述で表現することが適切とされています。

そのためには、まず、登場人物の心情理解のみに偏った授業や分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業を克服し、一人ひとりの子どもが、より多面的・多角的な見方へと発展する授業や、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めることのできる授業を積み重ねることが大切です。そして同時に、それを見取る力を教員は磨いていかなければなりません。

今回、提案して下さった手法は、子どもの書いたものから、その子の学びの捉え方を見取り、整理するも



のでした。当然、教員によって違ってきますが、こうしてそれぞれの捉え方を出し合うことで、何より、教員自身に多面的・多角的な見方が育ちます。

さらに、時系列で並べたことで、一つの時点だけでは見取れなかった、子どもの育ちが見えてきました。

道徳の評価は、個人内評価ですから、その子どもを評定するものではありません。その子どもの捉え方が、これまでに比べて、どのように広がったり深まったりしたのかを見取る必要があります。したがって、このように並べてみるのは有意義なことです。

なお、今回のA～Cの違いは、道徳的価値についての捉え方の違いというより、授業の中で心情理解にとどまったか、自分との関わりで考えられたかといった違いになっています。その分、授業の課題や改善点が見えたということです。そして、時系列での成長は、子どもの育ちもありますが、授業そのものが深まっていったということも考えられます。今後、さらに深い学びのある授業が展開されると、道徳的価値に対する子どもの成長が、より明確に見えてくることでしょう。

なお、今回のように、子どもの学びの結果としての表現物から、学びを見取ることも大切ですが、それを授業が終わってからではなく、授業中に、子どもの発言や記述等から見取り、授業の展開に生かしていくことも大切です。その力をつけていくためにも、今回のようなチームで行うモデレーションの試みを各学校や研究会で進めていただければ素晴らしいと考えます。



ひら やま なお き
平山 直樹

前神戸市立本庄小学校 校長

「感動，畏敬の念」と「よりよく生きる喜び」

よりよく生きる

人は皆、よりよく生きたいと考えるものです。しかし、よりよく生きるとはどのようなことかを改めて問い直してみると、そう簡単には答えられない難問であることがわかります。

よりよい生活と科学技術

私たち現代人がよりよく生きるうえで、科学技術は欠かせません。私たちは、暮らしのほぼすべての場面で科学技術の恩恵を受けています。日用雑貨、ライフライン、交通機関など、科学技術とその成果がなければ、私たちの生活がよりよい生活であることは不可能でしょう。これらの科学技術は人間の科学的思考の結晶だともいえます。

しかし、科学技術やそれを支える科学的思考が常によりよい生活を実現するとは限りません。20世紀の2つの世界大戦、環境破壊による気候変動や放射性廃棄物問題など、科学技術が私たちのよりよい生活を脅かす事例も数多くあります。

科学的思考と道徳的思考

では、科学的思考を生活の破壊ではなくよりよい生活の実現へと導くものは何なのでしょう。そうした役割を担うものと考えられているのが道徳的思考です。

科学的思考と道徳的思考の違いは、次のように説明することができます。

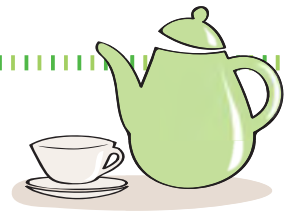
科学的思考とは、事実を正確に理解して記述する思考法であり、「pである」（例：「この学校の生徒数は100名である」）という仕方で表現されます。この表現の正しさ（真偽）は、実際に検証する（例：その学校の生徒数を数える）ことで判定できます。

これに対して、道徳的思考は、善悪や正邪など道徳に関わる思考法であり、「pはよい（正しい）」「pすべきだ」（例：「仲よくすべきだ」）という仕方で表現されます。この表現の正しさ（適切さ）は、ともに生きる私たち全員が受け入れられるか否かを思考することによって判定され、適切な場合には、pを行うことが私たちの義務として要求されます。

こうした道徳的思考が、科学的思考や科学技術を導く鍵となります。たとえば、「核兵器を製造できる」という科学的思考に基づく事実の中には、「核兵器を製造すべきでない」という判断は含まれません。その判断を担うのが道徳的思考であり、そこでは、問題となる科学的思考や科学技術がよりよい生き方をもたらすか否か、よりよい社会を作るのに役立つか否か、さらには、すべての人々が受け入れうるか否かといったことが吟味されます。このように、よりよい生活や生き方の問題に道徳の観点が多く関わっていることを忘れてはなりません。

図1 科学的思考と道徳的思考

思考	科学的思考	道徳的思考
内容	事実を正確に記述	道徳的価値観の表明
表現	～である	～はよい / 正しい / すべきだ ～は悪い / 不正だ / すべきではない
評価	真偽を確認（客観的な視点）	善悪・正邪の判断（他者の視点）
効果	世界を正確に理解する	世界をよりよいものへとつくりかえる



監修：広島大学大学院 教授 越智 貢
 共著：南山大学 教授 奥田太郎
 福山平成大学 教授 上村 崇

道徳的思考と他者の視点

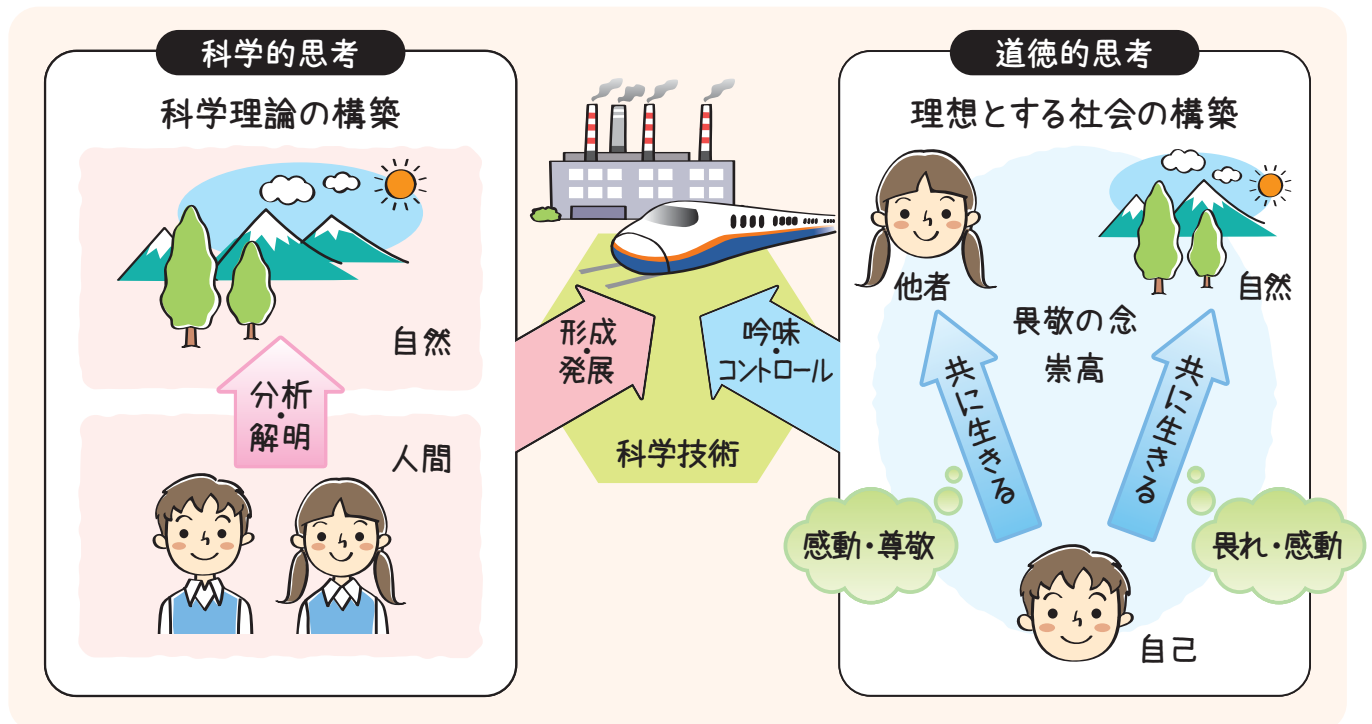
では、科学的思考ではなくて道徳的思考にあるものとは何でしょうか。それは、他者の視点です。道徳的思考が目指すのは、いわば他者とのよりよい共存の仕方であり、その意味で、他者とりわけ異質な他者とのように生きるべきかという問題(前号の「見てわかる! 道徳」を参照のこと)がその根幹にあります。この点で、科学的思考と道徳的思考は対極的です。科学的思考では他者は問題となりません。科学的思考は、誰もが同じ結論に至るための手続きであり、その限りで「私の思考」は「他者の思考」と変わらないからです。それに対して、道徳的思考で問われるのは、自分一人ではなく、他者とともによりよく生きることなのです。

このように、道徳的思考が他者との共存をめぐる思考法であるとするれば、道徳的思考は他者のみならず他者の感情にも深く関わることとなります。たとえ共感が成り立たない場合でも(前号を参照のこと)、私たちは、互いの感情を尊重しあうことで、お互いを尊重しあうのです。

感動と畏敬の念

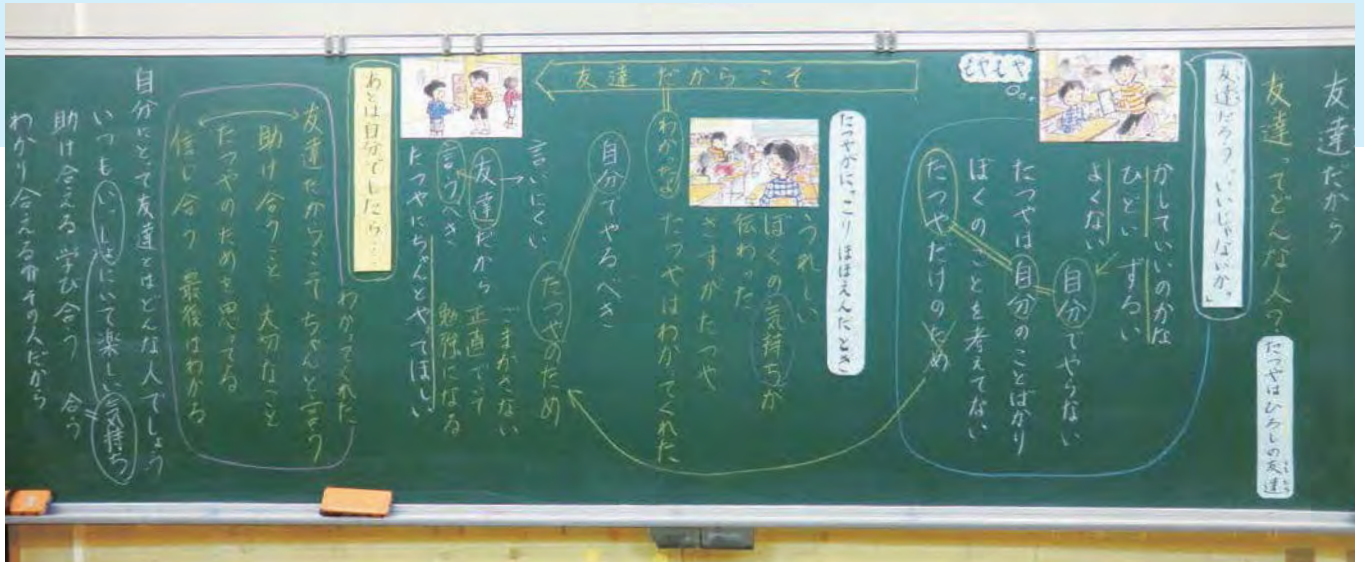
私たちの感情には、怒りや喜び、悲しみの他に、感動も含まれます。素晴らしい人物に接したとき、私たちは感動します。その感動が、自分のみならず他者をも含む一般的な観点からもたらされるとすれば、私たちはそこに崇高なものを見出し、畏敬の念すら抱くでしょう。そうした畏敬の念は、人間の高潔な行為に留まらず、荘厳な自然の光景に対しても向けられます。こうした自然に対する畏敬の念が科学的思考を適切に導く原動力ともなることはいうまでもありません。このように、よりよく生きることは、他者とともに生きることばかりか、自然とともに生きることとも結びついています。だからこそ、道徳的思考は、科学技術をよりよい生の実現へと導く役割を担うのです。

図2 科学技術と2つの思考



考える視点を明確にし、 「自己理解」に生かす授業実践

東京都 町田市立小山小学校 主幹教諭 野場 正道



1 はじめに

『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』の第3章1の(3)では、「児童の発達的特質に応じた内容構成の重点化」が取り上げられている。道徳科で扱われている内容項目について、「児童の道徳的価値を認識できる能力の程度や社会認識の広がり、生活技術の習熟度及び発達の段階などを考慮し、最も指導の適時性のある内容項目を学年段階ごとに精選し、重点的に示したものである。したがって、各学年段階の指導においては、常に全体の構成や発展性を考慮して指導していくことが大切である。」と解説があり、道徳的価値が、発達段階に配慮して指導されるべきであることを示している。児童の発達段階や実態に合わせ、内容項目の関連的、発展的な取扱いの工夫を道徳科の中で教師が意図的にねらっていく必要があることを踏まえ、今回の授業実践を行うことにした。

2 課題意識をもたせる授業展開について

本教材は、児童の身近な生活体験が描かれた作品である。主人公のひろしはたつやと1年生の頃から同じクラスで、一緒に勉強したり、遊んだりする仲のよい友達だった。ある朝、たつやはひろしに宿題の算数のノートを見せてくれと言う。すぐに渡さずにいると、たつや

は「友達だろう。」と言い、ひろしのノートを持っていってしまう。その後も、写し終わらないので貸してくれと言ってくる。その後、ひろしがたつやに算数の宿題を自分でやるように伝えると、たつやは、「ぼくたちは友達どうしじゃなかったのか。」と言い、2人は一日中、口をきかずに過ごすことになる。ところが、帰りのしたくをするときに、たつやは、ひろしに対してにっこりとほほえみ、2人は「友達」としての思いをお互いに理解していくという内容である。

本教材では、仲良しの友達に頼まれごとをされた主人公が、それを果たすべきかどうか迷いながらも、「友達」とはどうあるべきか自分なりに考えていく姿が描かれている。授業実践では、導入時から「友達」とはどんな存在なのかを児童に課題として問いかけた。児童は、「友達」とはどうあるべきか考える主人公の思いについて自分との関わりで考えることができた。また、自己を見つめる場面で、再度問い直すことで、「友達」に対する自分の考えをさらに深め自覚することができた。

以上の実践から、考える視点を明確にした今回の手法は、教師の指導観を児童にはっきりと示すとともに、児童が自分との関わりで考える姿勢につながったといえる。今後も導入時の発問は、児童の実態や教材の特性に合わせ、丁寧に取扱いしていく必要があると感じた。

展開例

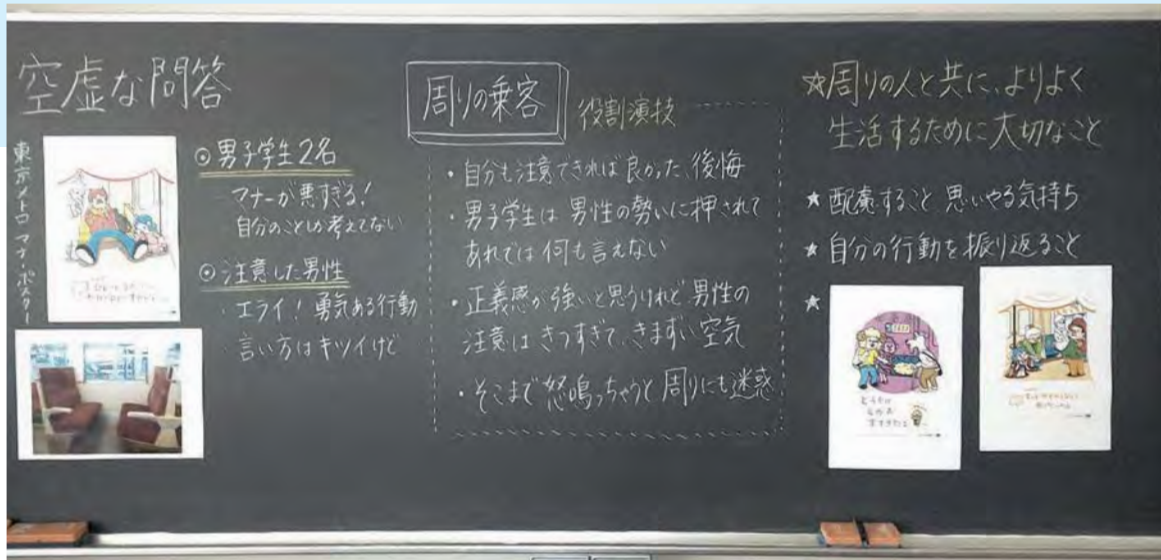
内容項目：B「友情，信頼」

<p>主題名 友達だから</p>	<p>ねらい 自分の思いが伝わったと気付くひろしの気持ちを考えることから、友達と互いに信頼し合い、助け合おうとする心情を育てる。</p>
<p>教材名 「友達だから」 (日本文教出版)</p>	

	学習活動(◎中心発問，○発問，・予想される児童の反応)	◇指導上の留意点 ◆指導上の工夫 ★評価
導入	<p>1 価値への導入を図る。</p> <p>○友達がいてよかったなあと思うことを聞かせてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 休み時間に一緒に遊んだり，話したりして楽しい。 ・ 勉強を教えてくれて助かった。 	<p>◇友達についての考えを共有できるようにする。</p> <p>◆学級の友達と楽しく過ごしている様子の写真を掲示し，場面を想起しやすいようにする。</p>
展開	<p>2 教材「友達だから」を読んで，ひろしの気持ちについて考える。</p> <p>めあて 「友達」ってどんな人か考えよう。</p> <p>○もやもやした気持ちが広がっていったのは，どのような気持ちからでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひどいなあ。自分のことばかり考えて。 ・ ノートを貸すのは友達ではない。 ・ たつやのためにならない。 <p>○「あとは自分でしたら……。」と言ったとき，ひろしはどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達だからこそ相手のためになるようにする。 ・ 自分で宿題をやらないと意味がない。 ・ 断っても，たつやならわかってくれるかも。 <p>○たつやがにっこりほほえんだのを見たとき，ひろしはどんな思いになったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくの気持ちをわかってくれた。 ・ よりよい友達として。 ・ 友達だからこそ……。 ・ たつやはやっぱり友達だ。 ・ 友達とは高め合い助け合う人だ。 ・ これからもたつやといい友達でいたい。 ・ 言いにくいことも友達のために言うのが友達だ。 ・ 助け合うのが友達だ。 	<p>◆「ひろし」と「たつや」を掲示し，2人が友達であることを確認する。</p> <p>◇算数のノートを貸してと言われたひろしが友達として迷う気持ちについて気付かせる。</p> <p>◆たつやのセリフを吹き出しで提示し，友達に対するひろしの思いをとらえやすくする。</p> <p>◇友達だから，たつやに自分で宿題をやってほしいと願うひろしの気持ちに気付かせる。</p> <p>◇ひろしのたつやへの思いが伝わったときの気持ちに気付かせる。</p> <p>★自分の思いが伝わったと気付くひろしの気持ちを考えることから，友達と互いに信頼し合い，助け合おうとする気持ちになったか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>深める発問</p> <p>たつやはひろしのどんな思いをわかってくれたのでしょうか。</p> </div>
終末	<p>3 自分の生活を振り返る。</p> <p>○自分にとって友達とはどんな人たちですか。</p> <p>また，自分はその友達にとってどんな人でいたいですか。</p>	<p>★自分がこれから大切にしたい友達との関わり方を考えることができたか。</p>
	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>◆谷川俊太郎の『ともだち』の詩を読み，友達のよさを感じ取らせる。</p>

みんなで語り、考える道徳の授業を目指して

東京都 荒川区立原中学校 主幹教諭 木下 陽子



【はじめに】

道徳の時間にいちばん大切にしていることは、「教師と生徒が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合うこと」である。中学校では教科担任制ということもあり、道徳の時間は学級担任と生徒が、唯一心を通わせ、語り合い、議論する時間として大事な時間であると思う。

心は、「教えたから育つ」というものではなく、そして「すぐに育つ」ものではない。しかし、誰でもよりよく生きたいと思い、自分や他者の幸せを求めながら生きている。多感な中学生という時期を考慮し、発達の段階や生徒を取り巻く環境を見極めることも大切に、資料選びをするように心がけている。

【自分の事として考えるために…演技を取り入れる】

本時では、混雑している電車にも関わらず、座席を

占拠する男子学生、またその様子に激怒し注意する中年男性、周りの乗客それぞれの気持ちを想像するために、電車でのやりとりを役割演技することを取り入れた。中学生の段階で、電車でのマナーや優先席の意義等については理解していると考えられる。ただ、「自分には関係ない」や「誰かが〇〇すれば良い」と受け止め、自分自身がどう行動するかを考えるよりも、他人事としてやり過ごしてしまいがちである。この教材を通し、登場人物(男子学生・中年男性・周りの乗客)それぞれの心情を想像し、やりとりを体験することで、自分の事として考えさせたい。

社会生活の中で、一人ひとりが他者を思いやり、公德を大切にしようとする心をもつことで、住みよい社会が実現される。友人や教師と意見交換しながら、生徒一人ひとりが社会の中で自分にできることを考え、実践しようとする意欲を育むことを目標にし、教材「空虚な問答」(『新・あすを生きる3』(日本文教出版))を使い、授業を展開した。

授業後生徒からは以下のような意見や感想があがった。

- まず、自分ができていることを考えて、行動することができるようになりたいと思った。
- 社会では譲り合うことが大切だが、それぞれの事情も考慮しなければいけないと思った。そして自己中心的な行動はいけなくて改めて思った。
- みんなが自分の意見を相手に押しつけすぎていると思う。公共の場では、自分だけが楽をしようという考えはダメだと思う。

展 開 例

内容項目：C 遵法精神・公德心
(B 思いやり, 感謝)

主題名 守るべき正しい道とはなんだろう。	ねらい 席を占拠する男子学生, 注意する中年男性, 周りの乗客の役割演技を通して立場を変えて考え, よりよい社会の実現は一人ひとりの周囲に配慮した行動によって成り立つことを理解し, よりよいものに変えていこうとする意欲を育てる。
教材名 「空虚な問答」(日本文教出版)	

導 入

展 開

終 末

学習活動(◎中心発問, ○発問, ・予想される生徒の反応)	◇指導上の留意点
<p>1 メトロ文化財団のポスターを提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で二人分の席を使ってマナーが悪い。 ・電車では譲り合うことが大切だと思う。 	<p>◇気づきを自由に発言させ, 資料への意識付けにする。</p>
<p>2 資料「空虚な問答」を範読する。</p> <p>○印象に残ったのは, どのようなことですか。</p> <p>(例)・男子学生のマナーが悪すぎる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意した中年男性は偉いと思うが, 言い方が良くないのではないか。 ・この後の電車の空気はとても悪くて, 周りの乗客も気まずい。 	<p>◇男子学生, 中年男性に対してそれぞれに感じたことを数名に聞く。</p>
<p>3 男子学生役2名, 中年男性役(教師), 周りの乗客役(数名)を事前に決めておき, 全体の前で実演する。</p> <p>【役割演技をする】(椅子4つを並べ, 生徒2名と荷物を置く)</p> <p>中年男性: おまえら, いいかげんにしろよな。四人座れるのに, 荷物で座席ふさがやがって。荷物は足元に置くか膝の上のせろよ。</p> <p>男子学生: ……………。</p> <p>中年男性: 何ぼけっとしてんだよ。さっさと荷物どけて席譲れって。おまえらそのまま, どこまで乗ってくつもり?</p> <p>男子学生: ……………次で。</p> <p>中年男性: 次? ばかやろ。次で降りるからって, そういう態度, 許されるわけねえだろ。おまえら剣道やってみただけで, そういうのって恥ずかしくねえのかよ, おい。</p> <p>男子学生: ……………。</p> <p style="text-align: right;">〈青文字箇所は, 教材より引用〉</p>	<p>◇男子学生を演じる生徒には事前に声をかけておき, スムーズに進むようにする。</p>
<p>○役割演技を見て, 「同じ電車に乗り合わせた乗客」として, どのように感じたか, 記入させる。(また, 乗客を演じた生徒に感想を聞く。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も注意すれば良かった。注意できなかった自分を恥ずかしく思う。 ・男子学生はなぜ返事すらせず, 反発さえしないのか不思議だが, 勢いに押されて何も言えなかったのかもしれないと思う。 ・注意した男性を正義感の強い人だと思うけど, きつく言ったせいで車内の雰囲気が悪くなった。 ・マナーが悪い人を注意するのは素晴らしい。だが, 怒鳴り声は他の乗客にも迷惑になってしまうのではないかと感じている。 <p>主題に迫る発問 ※グループで意見交換する</p> <p>○周りの人と共によりよく生活するために大切にすることはどんなことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが周りの人のことを考えて, ちょっと配慮する気持ちをもつことが大事だと思う。 ・自分が正しいと思うことでも, 思わぬことで人を傷つけてしまうこともある。自分の言動を振り返ることを大切にしたい。 	<p>◇乗り合わせた乗客の気持ちを考えさせ, 自分の事としての自覚を高めさせる。</p>
<p>4 メトロ文化財団の数枚のポスターを提示し, 授業を通して考えたことをまとめる。</p>	<p>◇男子学生, 中年男性, 周りの乗客それぞれの立場を考えさせ, 社会で大切にすべきことを数名で意見交換させる。</p>

【評価】

- ・よりよい社会の実現は, 一人ひとりの周囲に配慮した行動が大切であることを理解できたか。
- ・自ら行動していこうとする意欲を育むことができたか。




こんなとき、どうする？

今回の
テーマ

「先生の考えに合わない 意見を言ったり書いたりしたら 評価は下がるの？」



子どもたちと接する中で出てくる、「こんなとき、どうする？」。
道徳教育をより輝かせるためのヒントを、先生方に教えていただきました。

多様な考え方や感じ方に気づく道徳学習

岐阜市立市橋小学校
校長 河合宣昌

子どもに、「先生の考えに合わない意見を言ったり書いたりしたら評価は下がるの？」と聞かれたら、「道徳の時間は、様々な考え方や感じ方に気付く時間だから、評価は下がりにません。」と答えます。むしろ、教師が考えもしなかった意見を表出したことに感謝の気持ちを持ちます。なぜなら、教師は授業をするとき、発問に対する子どもの反応を予想しますが、その予想を超えているからです。そして、教師自身が新たな考え方や感じ方に気づくこともでき、すばらしいと思います。道徳の時間は、様々な考え方や感じ方に出会い、自分はどんな考え方や感じ方であるのかを確かにしていく時間です。したがって、教師は、多様な考え方や感じ方を表出する指導の工夫を積み上げることが大切になります。

「あなたの考えや意見」が大切

豊島区立西池袋中学校
校長 江川 登

生徒に尋ねられたらこう答えます。

よりよく生きていくために、みんなで話し合っ自分の考えを深めていくのが道徳の時間です。先生の考えではなく、みなさん一人ひとりの考えを大切にします。

評価するのは、学習活動の取り組みです。「自分と違う意見を大切にしているか」「いろいろな側面や角度から考えようとしているか」「登場人物を自分に置き換えて理解しようとしているか」「実際に行動することの難しさを自分のこととして考えているか」などが重要です。みなさんの成長が分かるように、文章で表現されます。ですから、先生の考えに合わないことで評価が下がることはありません。

自信をもって、よりよく生きていくための「あなたの考えや意見」を言ったり、書いたりしてください。

この質問がなぜ気になるのか

琉球大学
教授 上地完治

「授業者の考え」＝「道徳的に正しいこと」ならば、それを子どもに教えることは否定できないのでは？—そう考える先生にとっては、この質問に「そんなことないよ。」と答えるのはとても難しくなりそうです。

道徳授業で、子どもが自分なりに理由を考えて、道徳的に正しいことを獲得できたとき。このとき、道徳授業の意義は、「道徳的に正しいことを獲得できた」ということよりも、「子どもが自分なりに理由を考えて」という学習のプロセスの部分にあるのだと考えてみてはどうでしょうか。「物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える」ことが大切だと新しい学習指導要領も言っています。それに、このプロセスを経ないで「道徳的正しさ」が得られたとしても、それは決して自分のもの(自分事)にはならないでしょう。

どうする? だ先生!

マンガで考える
道徳教育



このページ以降は、
裏表紙側から逆向き
にお読みください。

第5話 まとめ

読み物教材を読むだけでは、
道徳の時間にはなりません。

下や前ではなく、「横を向く授業」を通して
お互いの考え方や生き方を交流し、
それを深め合い、高め合えるように
しましょう。



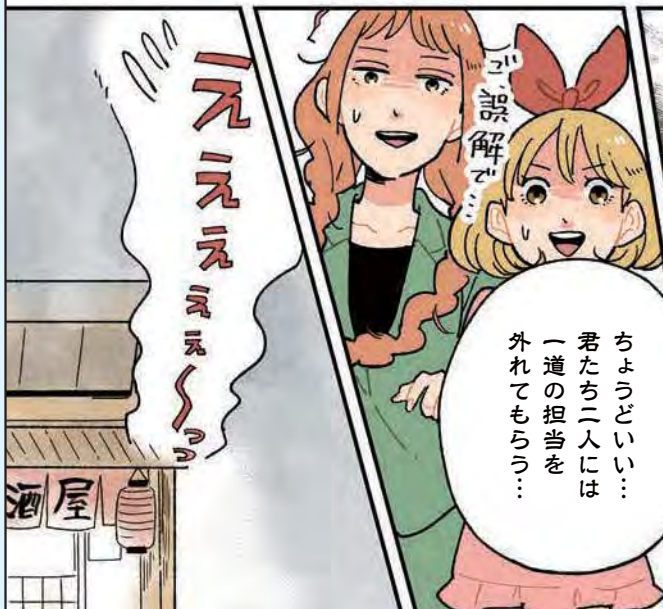
ま、まさに
わいわいがやがやの
「居酒屋の授業」ですね!

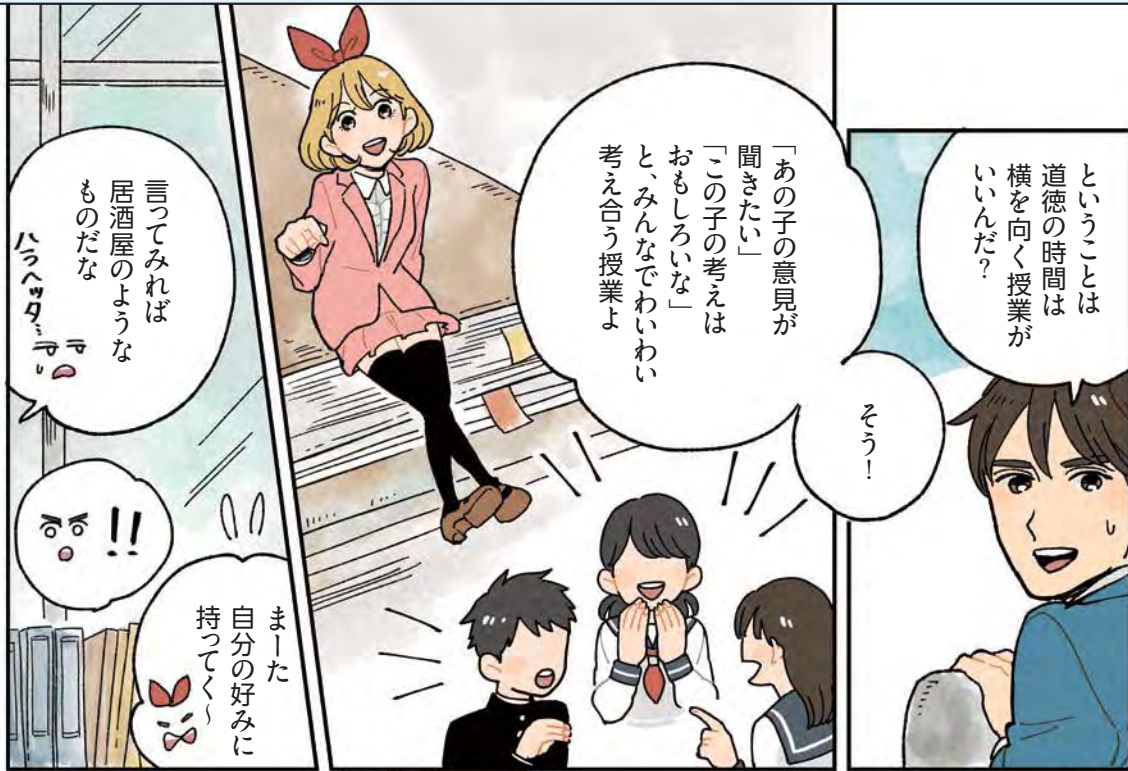
このマンガの続きは弊社ウェブサイトで開催中!
ぜひご覧ください!

<http://www.nichibun-g.co.jp/>



ララ…モモとルルの上司。犬の姿をしている。





「あの子の意見が聞きたい」
「この子の考えはおもしろいな」
と、みんなでわいわい考え合う授業よ

そう！

「あの子の意見が聞きたい」
「この子の考えはおもしろいな」
と、みんなでわいわい考え合う授業よ

「あの子の意見が聞きたい」
「この子の考えはおもしろいな」
と、みんなでわいわい考え合う授業よ

また自分の好みに持ってくる

!!



読み物教材をただ読むだけじゃなく

それぞれの考え方や生き方を深め合い、高め合うのが道徳の時間さ

はは。はは。くん

なるほどなるほどなるほど...

キーンカーン...



保理先生！
先ほどの答えですが
今晚、お暇ですか？

えっ
あ、はい！

あと二んくらい誘ってし...

一道本当にわかったのかしら...
何かイヤな予感...

か...

あつ！
保理せんせーっ





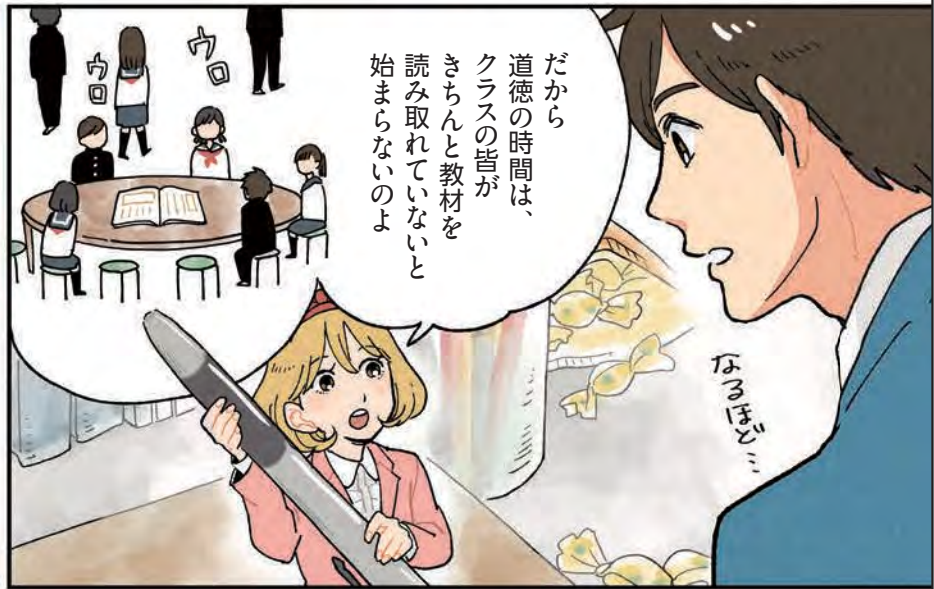
国語の
読み物教材は
読解力を鍛える
ためのもの

でも、
道徳の
読み物教材は
道徳的価値について
皆で考え合うための
「テーブル」なんだ

やさし
だね…
なるほど
ね…
でもさ、
思いやり
は…



こういうことは…
生徒がずっと
下を向いている
授業は？



だから
道徳の時間は、
クラスの皆が
きちんと教材を
読み取れないと
始まらないのよ

なるほど…



道徳の時間で
考え合うことは、
教材の中には
書いていないのよ



教材の読み取りに
終始しているか、
教材の文中に答えを
探しに行っている
授業だな

確かに、
道徳は読解力を
育てる時間じゃ
ないよね



徳田一道：主人公。新任の
中学校教師。悩んでいる。



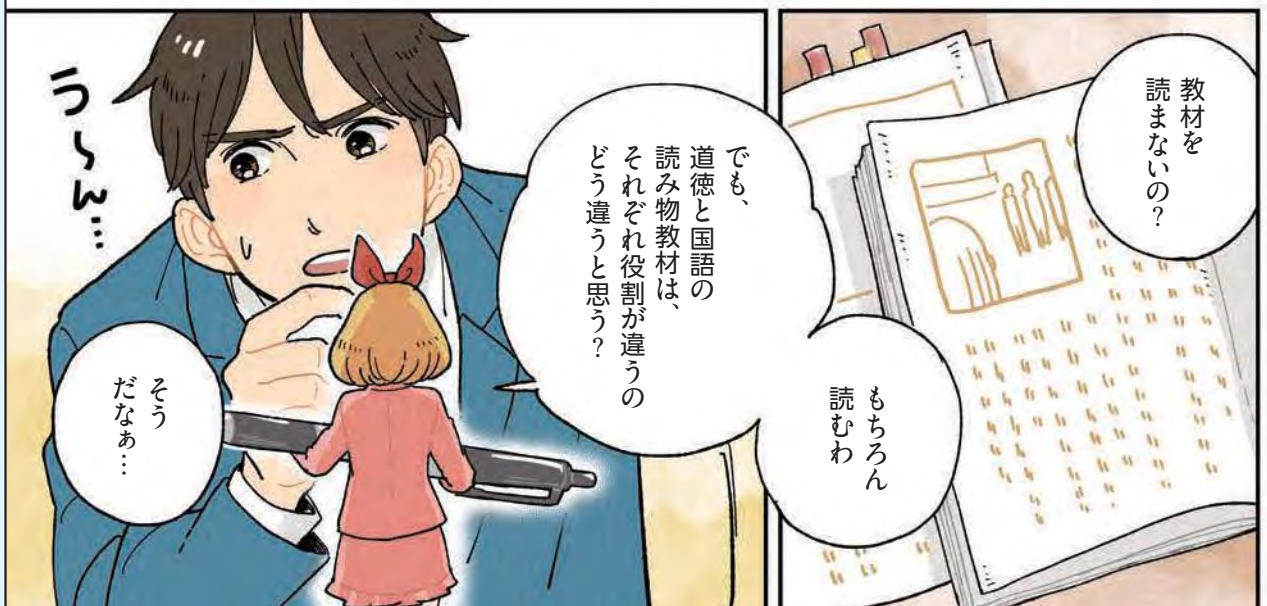
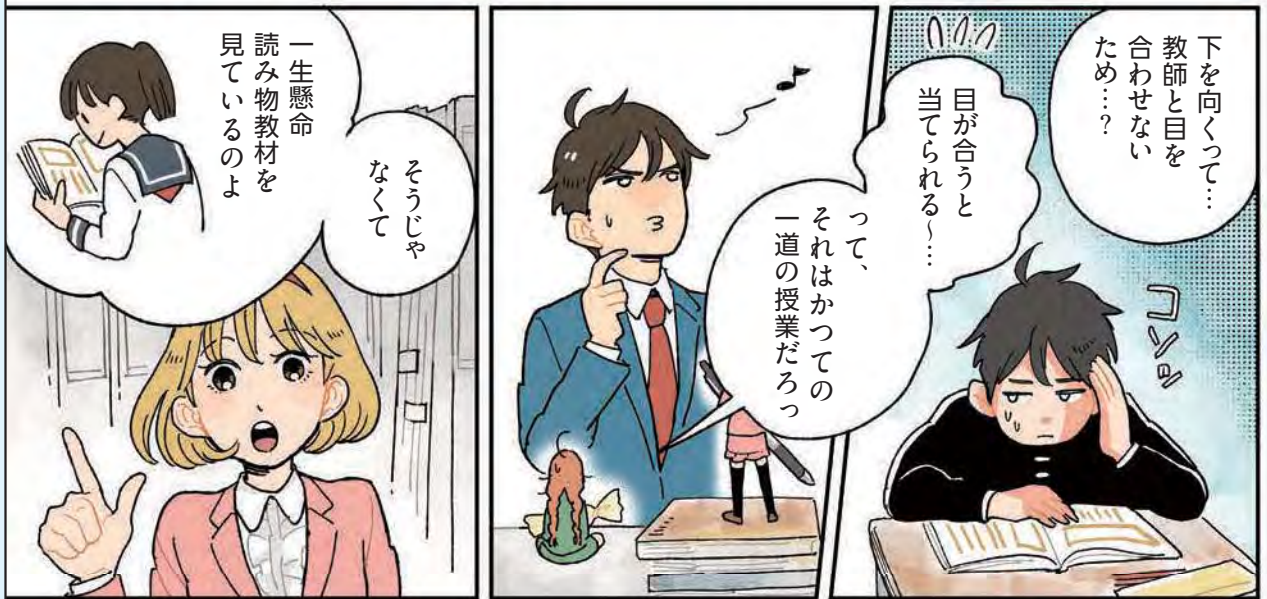
保理倫：一道の同僚の
中学校教師。

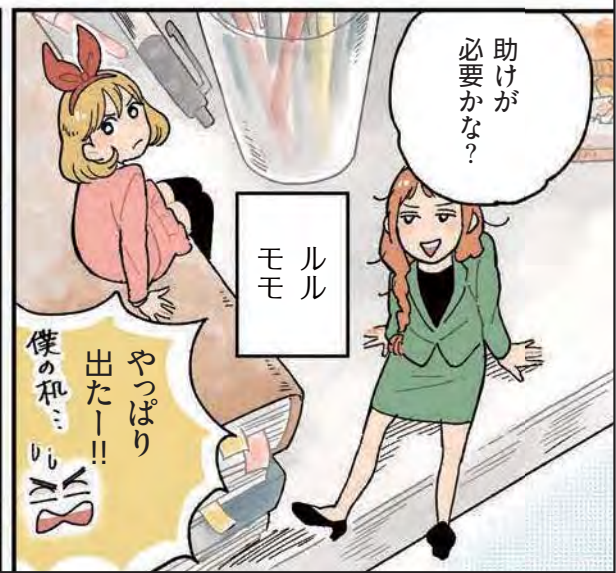


モモ：「道徳」について教えてくれる
妖精(?)。一道にしか見えない。



ルル：モモと一緒に「道徳」について
教えてくれる妖精(?)





このマンガは……弊社ウェブサイトで公開中の「道徳教育」を解説するマンガです。
ここでは、第5話を掲載しています。続きはウェブサイトをご覧ください。

弊社ウェブサイトで好評公開中の
「**どうとくマンガ**」が続いて紙面に登場!

どうとく する? だ先生!

マンガで考える
道徳教育



第5話

読み物教材を読ませれば、
「道徳の時間」に
なるんですよ?

監修：畿央大学大学院 教授 島 恒生
作画：たら子
原作：日本文教出版 編集部



地球の仲間からの メッセージ

元大阪市天王寺動物園 園長 長瀬 健二郎

卵を孵す^{かえ}

両親が交代で卵を温めて孵す、というのが鳥のイメージで、確かに多くの鳥がそうします。身近なものではスズメやツバメ、それにカラスなどがそうです。でも冬になると川や池に渡ってくるカモでは、それは母親だけの仕事になります。季節の風物詩になっている皇居前の道路を渡ってお堀に入るカルガモ親子ですが、映像を思い出してください。あの時に見られるオトナのカモは一羽だけです。先頭をお父さんが引率し、それにヒナがついてゆき、最後をお母さんがヒナたちを守る……。そんな光景が画面で流されたことはないですよね。お母さんだけするのがカモの子育てです。キジの仲間も同様です。

逆にお父さんだけでヒナを育てる鳥もいます。タマシギという鳥がそれです。日本では田んぼや湿地で暮らしています。メスはオスよりも体が大きく羽色も派手で目立ちます。一羽のメスが数羽のオスとペアになり、オスが守る巣に卵を産んで回ります。オスはそれらの卵を一羽で温め子育ても一羽で行うイクメンです。が、世界中を見回すとやはりオスだけで子育てする鳥はあまり多くありません。

ほんのわずかの種ですが、両親がそろって抱卵も子育てもしない鳥がいます。それはオーストラリアや大洋州に住むツカツクリと呼ばれる仲間です。ではなぜ両親に見捨てられた卵が孵化するのでしょうか。それは自然の力を利用しているからです。

火山島に住んでいるものは地中に卵を産んで地熱によって温めます。あるものは浜辺の砂の中に産んで、太陽の熱で孵化させます。またあるものは枯葉などを積み上げて塚を作り、それらの堆積物が発酵して出す熱を利用して卵を孵します。この鳥の場合は、父親が付き添い、時折、塚にクチバシを突っ込んで温度を測り、発酵が進み過ぎて熱くなっていれば枯葉を取り除き、温度が下がればまた枯葉を追加する、という温度管理をします。どの鳥のヒナも、孵化したばかりでも自活す



▲ホオジロカンムリヅルの親子
ツルは両親そろって子育てに励みます

る能力を持っていて、卵から孵った時から単独で暮らします。

カッコウやホトトギスは托卵^{たくらん}といって、他の鳥の巣の中に自分の卵を産んで育ててもらいます。ずいぶんと身勝手な方法ですが、産み込まれたほうの鳥も見破って卵を巣から捨ててしまうこともあり、そんなに確実な子育ての方法でもないようです。

さまざまな鳥がさまざまな子育て方法を持っています。そのいずれもが、一羽でも多くの子孫を残そうと鳥たちが編み出した秘法なのです。

教科化の準備はコレで安心！！

小学校道徳・中学校道徳 副読本

一部改正学習指導要領「特別の教科 道徳」移行措置対応！

平成30年度(小学校)、平成31年度(中学校)からの「道徳の特別教科化」を見据えた副読本です。

小学校道徳

新 生きる力 1～6年



- 一部改正 学習指導要領で、新しく追加された内容項目に対応する資料を網羅！
- 「いじめ」「情報モラル」など現代的な課題を学年の発達段階に応じて系統的に掲載！
- 各学年4～6資料の**選択資料**を掲載。学校・学級の実情に応じた資料を選択可能！
- 展開例を併記した**大きな板書例**。板書の流れに沿って発問を確認できる！
- 「指導のポイント」と「めざす児童の変容と評価の視点」でブレのない授業ができる！

中学校道徳

新 あすを生きる 1～3年



- 「いじめ」「安全教育」「情報モラル」など、「特別の教科 道徳」で重視される題材を豊富に掲載！
- 「多面的・多角的」に考えられるように、文章が平易で、身近な内容の資料を精選！
- 付録「ワークシート集」「教師用DVD-ROM」で、「あつ」という間に準備ができる！
- 「問題解決的な学習」等をサポートした指導書で、「あつ」と言わせる授業ができる！

道徳と日文
これまで、これからも



昭和33年、「道徳の時間」が特設されて以来、私たちは小学校、中学校の副読本をはじめ数々の教材を発行してまいりました。「特別の教科 道徳」のスタートにあたり、よりよい道徳教育を推進するためにこれからも歩み続けます。

どうとくのひろば No.16

日文教育資料[道徳]

平成29年(2017年)1月31日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

デザイン: モスリンググラフィック

CD33334

日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690